

屋外にベッドを並べた仮設の診療所
11月2日、ネパールバグマティ県(長崎大
提供)



長崎大 山本教授 ネパールから帰国

余震続き屋外で治療



山本太郎教授

ネパール大地震の緊急医療
支援で被災地に赴いた長崎大
熱帯医学研究所の山本太郎教
授(51)が12日、長崎市文教町
の同大で帰国報告会見を行
い、現地の医療状況を説明し

た。
山本教授は国際医療援助団
体「AMDA(アムダ)」(本
部岡山市)の一員としてネパ
ール入り。ヒマラヤ山麓のバ
グマティ県カリチョウの病院
に設置した仮設診療所で1日
から4日まで、治療が円滑に
進むように現地の医師や看護
師の手助けをした。
教授によると、地面が震え
るような強い余震が続き病院

内は危険なため、屋外にベッ
ドを並べて治療。電気と水道
は使用可能で、医薬品の不足
はなかった。患者は1日約70
人。骨折、打撲、切り傷が多
く見られた。

教授は「非常に広範囲の地
震」と印象を語った。「患者は
山道を4、5時間かけて歩い
てきたり、担架で運ばれてき
た。さらに奥地の被災者は診
療所に来られなかったのでは
ないか」とし、「今後も接ぎ目
のない支援が必要」と訴えた。

(松尾潤)